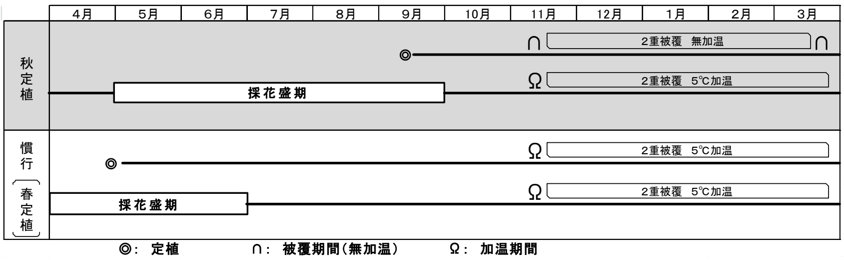
<table>
<tr><td>事　　　項</td><td colspan="3">アルストロメリアの秋定植無加温越冬栽培</td></tr>
<tr><td>ね　ら　い</td><td colspan="3">本県のアルストロメリア栽培は、春に定植し冬期間の微加温を経て翌年４月以降から採花が始まるため、他産地と出荷時期が重なり販売単価の確保が難しいことから、採花盛期が切り花単価の高い夏秋期となる作型について検討したところ、秋定植無加温越冬栽培が適することが明らかになったので参考に供する。</td></tr>
<tr><td>指
導
参
考
内
容</td><td colspan="3">１　秋定植無加温越冬栽培のポイント
(1) 秋定植無加温越冬栽培の作型


(2) 適品種の選定
夏秋期出荷が中心となるので、夏秋期に品質・収量とも優れる品種の情報を収集し、出荷先と協議して選定する。なお、本試験においては、「スノータイム」「レベッカ」が夏秋期の収量が高く、有望である。
(3) 無加温越冬後の管理
冬期の凍害により地上部は枯れるため、越冬後２月の萌芽時に地際５cm程度で台刈りを行う。越冬株は枯死株とはならず、気温の上昇と共に萌芽し、６月から採花できる。

２　本作型の利点
(1) 夏秋期の収量増加
春定植に比べ高単価となる夏秋期（５～９月）の採花本数が増加する（表１）。
(2) 販売試算額の増加
春定植に比べ定植３か年の販売額が１～２割程度増加する（表２）。
(3) 燃油費の削減
定植初年目は無加温越冬のため、一冬分の暖房費が削減できる（表３）。
(4) 切り花品質の向上
春定植と同等以上の切り花品質が得られ、２Ｌ規格割合が向上する（表４）。</td></tr>
<tr><td>期待される
効　　　果</td><td colspan="3">１　秋定植と春定植とを組み合わせることにより継続出荷が可能となり、作業時間の分散も期待できる。
２　暖房経費が削減でき、生産コストの低減につながる。</td></tr>
<tr><td>利 用 上 の
注 意 事 項</td><td colspan="3">１　株の状態を見ながら採花過多や過繁茂にならない様、適正に管理する。
２　夏期の地中冷却を行なわず、冬期最低室温５℃の加温を行った場合の結果である。
３　品種により効果が異なるので、導入に当たっては農林総合研究所に相談する。</td></tr>
<tr><td>問い合わせ先
(電話番号)</td><td>農林総合研究所　花き部（0172-52-4341）</td><td>対 象 地 域
及び経営体</td><td>県下全域のアルストロメリア作付経営体</td></tr>
<tr><td>発表文献等</td><td colspan="3">平成25～28年　試験成績概要集（農林総合研究所）</td></tr>
</table>

【根拠となった主要な試験結果】

表１　各月における採花本数の推移　（平成25～28年　青森農林総研）

品　種	作　型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
スノータイム	秋定植無加温	3.7	4.0	4.0	2.7	19.5	13.2	24.1	8.4	7.6	6.3	5.0	2.5	101.0
	春定植加温	4.5	6.0	7.6	3.7	12.6	10.7	11.7	7.9	6.7	7.3	4.8	6.6	90.1
レベッカ	秋定植無加温	2.5	2.5	6.5	5.9	2.0	9.3	19.8	14.0	6.0	0.9	0.7	1.8	71.9
	春定植加温	3.4	4.2	7.0	8.5	2.2	1.2	8.0	7.2	6.0	4.0	3.9	3.8	59.4

（注）１　数値は定植から３年間の各月における１株当たりの採花本数（本）。
　　　２　網掛け部分は夏秋期において秋定植無加温越冬栽培の採花本数が春定植加温越冬栽培を上回った月。

表２　１株当たりの販売試算額（定植より３か年）
（平成25～28年　青森農林総研）

作　型	スノータイム	レベッカ
秋定植無加温	7,885円（117%）	4,721円（115%）
春定植加温	6,750円（100%）	4,104円（100%）

（注）１　販売額は県内Ｔ農協の平成24年の販売実績（月別、規格別販売単価）より試算。
　　　２　括弧内の数値は春定植加温越冬栽培を100としたときの比率。

表３　本作型における枯死株率、暖房費及びハウス内の最低気温
（平成25、28年　青森農林総研）

作　型	枯死株率(%)	暖房費(円/60坪)	日最低気温の平均(℃) 1月 上旬	1月 中旬	1月 下旬	2月 上旬	2月 中旬	2月 下旬	3月 上旬	3月 中旬	3月 下旬	期間最低気温(℃)
秋定植無加温	0	0	-1.4	-0.8	-1.7	-0.9	0.1	-1.3	0.5	-0.3	-1.5	-5.4
冬期加温（５℃）	0	144,045	4.1	4.1	4.1	4.1	4.3	4.1	4.1	4.0	3.9	3.3

（注）１　暖房費は平成27年度の60坪ハウスの燃油使用料（1,650ℓ）をもとに灯油価格を87.3円/ℓとして試算。
　　　２　冬期加温（５℃）は冬期間最低室温５℃で加温。
　　　３　最低平均気温は秋定植１年目（平成24年度）のハウス内気温より算出。
　　　４　期間最低気温は同年度のハウス内最低気温（平成25年１月24日に記録）。

表４　切り花品質及び規格別割合　（平成25～28年　青森農林総研）

品　種	作　型	切花長(cm)	茎長(cm)	小花数(個)	花蕾数(個)	切花重(g)	茎径(mm)	規格別割合（%） 2L	L	M	S	規格外	L≧	採花本数
スノータイム	秋定植無加温	135.6	122.0	5.7	5.7	90.1	7.2	52	34	7	0	7	86	101
	春定植加温	130.9	117.5	5.7	5.6	81.8	6.8	38	39	17	0	6	77	90
レベッカ	秋定植無加温	143.6	126.1	4.5	4.5	77.2	6.5	21	35	28	5	12	56	72
	春定植加温	145.2	127.6	4.6	4.6	76.4	6.2	11	51	26	1	12	61	59

（注）１　２Ｌ：切り花長90cm５花５蕾茎径７mm以上、Ｌ：切り花長80cm４花４蕾茎径６mm以上、
　　　　Ｍ：切り花長70cm３花３蕾茎径５mm以上、　Ｓ：切り花長60cm３花３蕾茎径５mm以上、
　　　　規格外：Ｓ未満および曲がりのあるもの
　　　２　採花数は規格外を除いた株当たりの総採花本数（定植より３か年）。

＜耕種概要＞

項目	内容
定植日	秋定植無加温越冬　平成24年9月20日、10月23日 春定植加温越冬　平成25年5月20日
施肥量(kg/a)	基肥　窒素：りん酸：加里＝1.5：2.0：1.5　（初年目） 追肥　窒素：りん酸：加里＝0.2：0.1：0.2 × 20回／年　（２・３年目）
栽植様式	ベッド幅90cm、通路70cm、株間40cm、条間40cm　２条千鳥植え
温度条件	秋定植無加温越冬　定植年の越冬は無加温（内張り被覆）、２年目以降は最低温度５℃、 春定植加温越冬　定植から調査終了まで最低温度５℃で管理